

水道料金と下水道使用料の 制度等の見直しについて

本市の水道料金及び下水道使用料の制度は高度経済成長期の昭和40年代に作られ、以来60年間変わっていませんでした。

ですが、この間、社会環境が変わり、水の使われ方も変わったため、現状と合わないものとなっています。

上下水道局では、今後の財政状況の厳しさを踏まえ、料金等の制度と水準について、外部の専門家等で構成する審議委員会に諮問した上で、見直しをすることとしました。

水道料金や下水道使用料って どういうものなの？

水道や下水道は、生きていくために不可欠なものなので、なるべく安くすることが求められます。

一方で、水道事業や下水道事業は公営企業として、水道料金や下水道使用料により経営しなければなりません。

水道料金や下水道使用料は、水を飲めるようにしてみなさんに届けたり、使われた水をきれいにして川や海に戻すために必要な施設の運転や工事の費用に使われます。

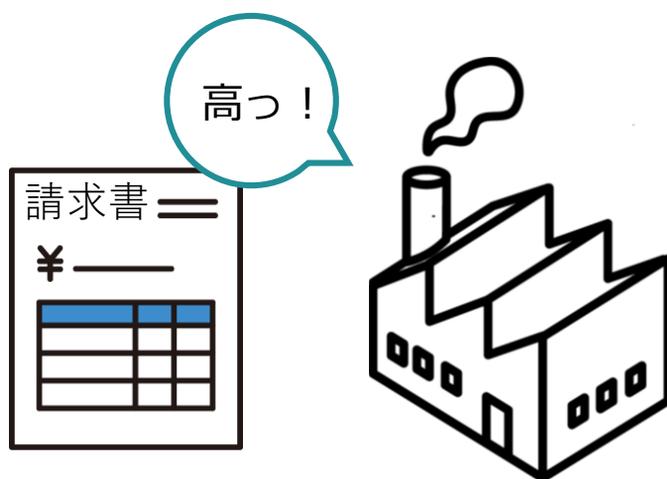
えっ！税金じゃなかったの！？



水道料金や下水道使用料の制度ってどうなってるの？①

ダムをつくったり、水道や下水道の施設をつくったりするにはお金がとてまかかります。産業が発達し、水需要が増えた高度経済成長期はそんな時代でした。

必要なお金を使用者全員から同じように払ってもらおうと、料金がものすごく高くなってしまいます。そこで、水をたくさん使う使用者から多く払ってもらうことで、生活用水として使っている使用者の分は安くしました。



水道料金や下水道使用料の制度ってどうなってるの？②

ふつうは買えば買うほど安くなりますよね。

水は使えば使うほど単価が高くなっていきます。

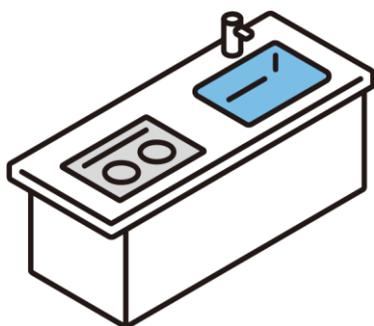
こうすることで、たくさん水を使うところから多くお金を支払ってもらい、同時にこれ以上施設を大きくしなくてもいいように、水をあまり使わないよう抑える目的もありました。

その差

水道

5倍

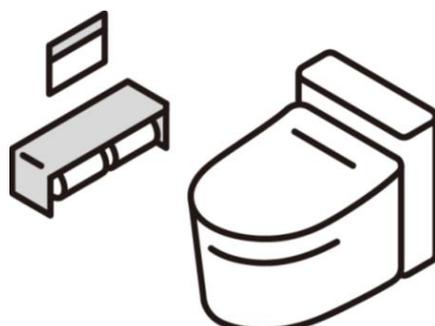
しょうがない



下水

7倍

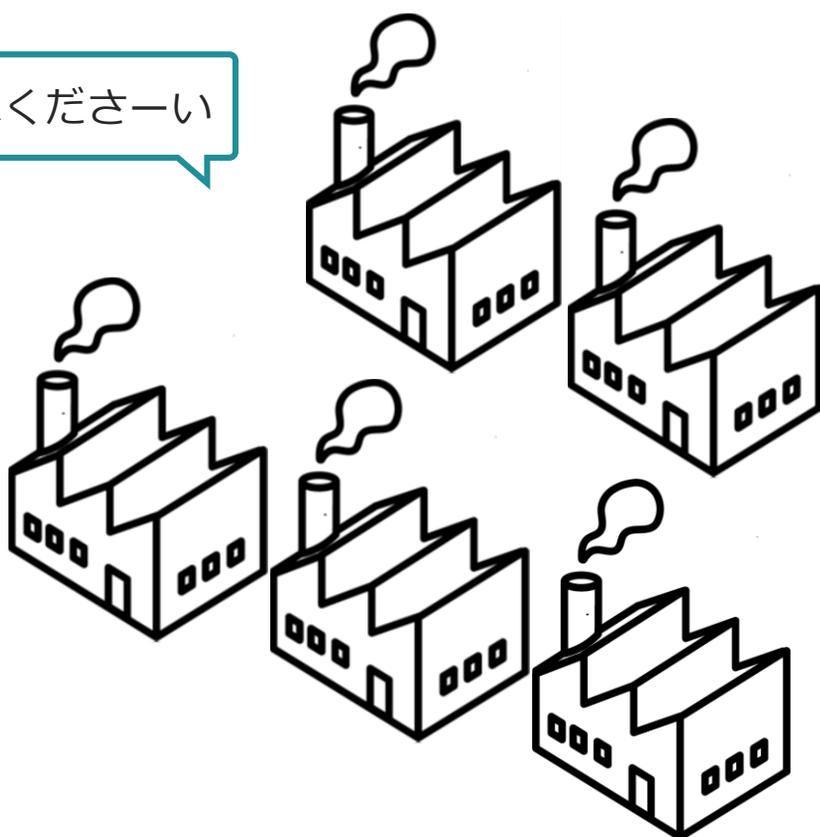
しょうがない



水の使われ方って昔はどうだったの？

昭和40年代までの高度経済成長期では、人口が増えることによって生活用水も多く使われるようになりましたが、工場などの水を多く使う事業所が増え、そこで多くの水が使われていました。

水くださいーい



水の使われ方ってどう変わったの？

近年では、一度使った水を再利用するなど、節水機能が発達したことや、水を多く使う事業所そのものがなくなったりと、家庭で使用する生活用水の割合がどんどん増えています。

その割合

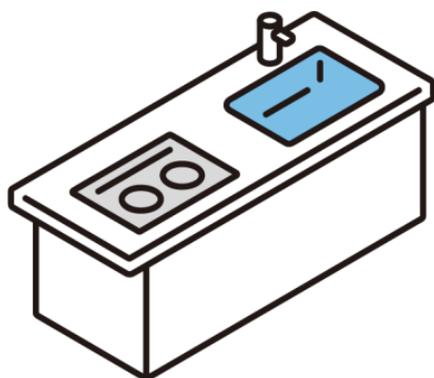
家事用

97

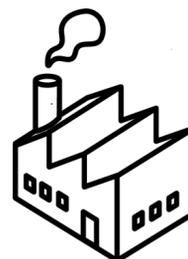
:

生産・加工用

3



主役ですから

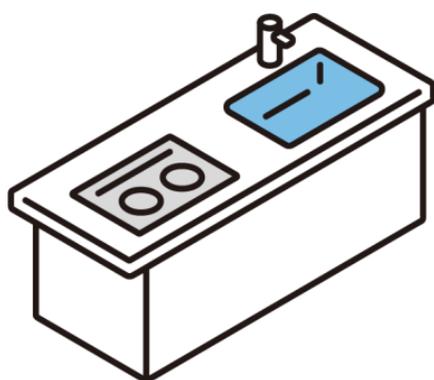


料金の制度が現状と合っていないってどういうこと？

今は水需要が減ってきています。新しく施設を作る必要はありません。今水道と下水道に必要なのは、施設を運転したり更新したりするお金です。

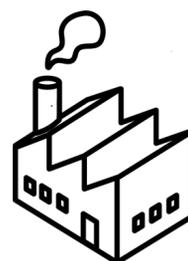
たくさん水を使ってたくさん料金を払っている使用者が少なくなると、その分収入がガクンと減っていきます。

このままだとお金が足りなくなるかもしれません。



困りますな

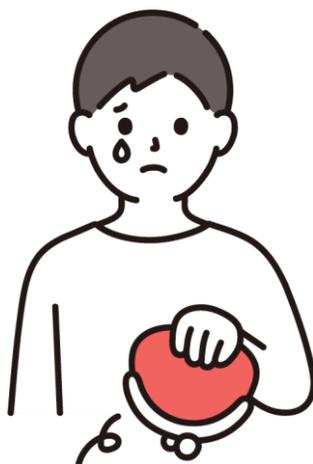
困りますよ



財政状況が厳しいってどういうこと？

昨今の物価高騰と、人件費の上昇で水道事業や下水道事業に必要なお金がどんどん増えている一方で、水需要の減少に伴い、料金収入は減っています。

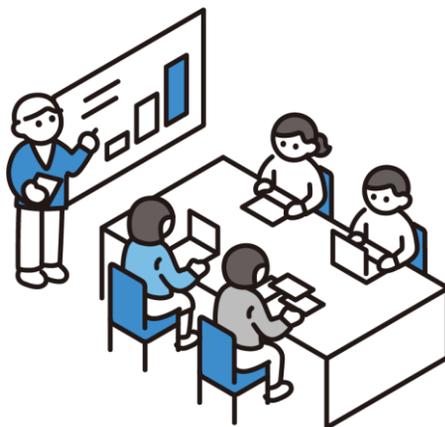
もしこの状態が続くと、という条件で試算したところ、数年後には赤字が発生し、資金が足りなくなるという結果になりました。



直ぐに値上げするってこと？

確かに財政状況は厳しいですが、これからの水道事業と下水道事業がしっかりと運営できるように、まず必要なお金や料金の制度について検討をします。

検討を行うに当たっては、外部の専門家を中心とする経営審議委員会に諮問をします。そこから出される答申を受けて、値上げをするかどうかを決めていきます。



料金ってどうやって決めるの？

これからやらなければいけない事業や、それに必要なお金、それに見合った料金制度については、検討状況をみなさんにお伝えしていきます。

そして、みなさんの御意見も参考にしながら、最終的にはみなさんの代表機関である議会で審議した上で、料金制度や料金は決まります。

